

令和5年度学校評価報告書（定時制）

1 本年度の重点目標

- 1 個性・能力を伸長させる指導の充実に努め、主体的に学ぶ姿勢と基礎基本の確実な定着を目指す学習指導の充実
- 2 基本的生活習慣を確立し、自らを律する態度や他を思いやる心を育む指導の充実
- 3 進路意識の高揚と将来の望ましい自己実現を可能とする能力の伸張
- 4 心身ともに健康で充実した学校生活を目指す健康・安全指導の充実強化
- 5 ワークライフバランスを踏まえた教育活動の推進及び明るく事故のない職場環境の構築

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	ア 生徒の自発的、意欲的な学習態度の育成を図り、学力向上に努める。 イ 「主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善」に取り組み、生徒に成就感を持たせる指導に努める。 ウ 「総合的な学習の時間」「探究的な探究の時間」により、体験を通じた実践力の育成に努め、ポートフォリオ等の作成を推進する。 ○ イ・ウについては概ね達成した。アについては、日常的なICT活用という点において不足していた。	適切な評価をしている。 今後、ICTの活用は必然となるので力を入れてほしい。 就職・進学に有利なICT活用は必須であり授業での取組に期待したい。 ICT活用については、先生方だけではなく生徒たちの中に根付くにはそれなりの時間が必要かもしれない。
改善方策	・授業におけるICT活用をより一層推進していく。 ・教職員の伝達や書類等も、可能な限りのICT化を進める。	
生徒指導	ア 学校・家庭・職場間の連携を密にし、基本的生活習慣を確立させ、主体的に生きる力を育成する。 イ 生徒理解を深め、教師と生徒との信頼関係を確立し、適切な個別指導に努める。 ウ 他を思いやる心と自らの心身をたくましく鍛える心の育成に努める。 ○ ア～ウについて達成度が高かった。特に教育相談の実施や講話・HRを活用し、いじめ防止の取組を実践できた。	適切な評価をしている 先生方のこまめな対応を感じ、いじめ防止にも力を入れている。 生徒一人ひとりに合わせた指導が行われ、教育相談も適切に行われている。 友人関係や家庭内の事象についても調査から相談まで丁寧に対応しており、いじめ等の問題は顕在化していない。
改善方策	・生徒指導部及び教育支援委員会が連携して、さらなる教育相談の充実を図る。	
健康安全指導	ア 生命の尊さを基本に据え、健康安全指導の徹底を図る。 イ 体育的活動への積極的な参加を通し、体力向上を図る態度の育成に努める。 ウ 日常的に身体状況を把握させ、事故の健康管理の習慣を育成する。 エ 交通安全の啓発・事故防止の徹底に努める。 ○ ア～エについて達成度が高かった。特に交通安全の啓発活動については、しっかりと行うことができた。	適切な評価をしている。 啓発活動がしっかりされている。 地道だが、しっかりと活動している。
改善方策	・生命の尊さを啓発していく活動について、さらなる充実を図る。	
進路指導	ア 社会的、職業的自立に向けて、各学年のキャリア教育を系統的・計画的に推進する。 イ インターンシップ等体験学習の機会の提供と参加の推進を図り、進路意識の向上を目指す。	適切な評価をしている。 今後インターンシップの人数がさらに増えることが望ましい。

	ウ Fの時間を通じて、4年生へのキャリア教育を行う。 エ 外部機関等との連携を密にし、情報収集・情報発信を積極的に行い、教育活動に生かす。 ○ ア・ウ・エについては概ね達成できた。イについては、進路意識を向上させる様々な機会を提供できた。	進学者が増えていることは評価できる。 多くの機会が提供されている。
改善方策	・インターンシップ等の様々な体験機会を増やす。 ・進学講話や資格取得について学ぶ機会を増やし、進学実績向上も目指す。	
組織運営	校務分掌や学年団、委員会等の校内組織を効果的に運営する。	適切な評価をしている。
改善方策	・兼務可能な業務を整理し、適材適所の配置から効率の良い組織運営を目指す。	
研修	ア 授業や指定事業等及び健康安全指導の改善並びに新しい事象や課題等への対応に努める。 イ 校内の研修実施体制を整備する。 ○ ア・イについて達成度が高かった。動画視聴を利用し、ヤングケアラーの理解やいじめの未然防止について、研修会を複数回実施することができた。	適切な評価をしている。 折に触れて研修が行われている。 タイムリーな事象を取り上げて、生徒の意識を高めている。
改善方策	・様々な研修の形を活用し、よりの確な研修を行う。	
保護者地域との連携	ア P T Aや関係団体との連携の充実に努める。 イ 地域の自然や文化財、専門家などの教育資源を活用する。 ○ アについては、次年度の改善が必要と反省する。イについては、地域人材を大いに活用できた。	適切な評価をしている。 保護者側も連携活動についての実感が薄いようである。 種々の機会を利用して、様々な取組を充実させていることは評価できる。 地域人材をうまく活用し、定時制の存在価値をPRできている。
改善方策	・P T A研修等、アフターコロナの取組としての充実に図る。 ・次年度もさらなる人材の発掘に努め、4年間を見通した活動にしていく。	
施設設備	施設設備の安全・維持のための取組に努める。 ○ 重点目標は概ね達成できた。事務室を中心として取り組むことができている。	適切な評価をしている。
改善方策	・熱中症対策に向けた設備の拡充・有効活用に努める。	
その他	ア 学校の状況を踏まえた重点目標等の設定が適切である。 イ 教育活動に関する生徒、保護者の満足度の把握に努める。 ウ 在校等時間の縮減を図り、自身の心身の健康に気を配り、ガイドラインやルールを遵守する。	適切な評価をしている。
改善方策	・重点目標等の設定が適切であるかについて議論を進める。 ・学校評価アンケートを通じて生徒・保護者の満足度の把握に努める。 ・適切な勤務時間を管理して、ホレイや規則を遵守しながら、教職員の健康を守る。	
公表方法	・自己評価の結果を全教職員及び学校評議員、P T A役員に公表するとともに、学校HPにも掲載した。	